

研究会報告

物流研究会

<http://miho.hiroshima-cmt.ac.jp/~NL/topr.html>

1. 2006 年度春季講演会

- (1) 日時：平成 18 年 5 月 26 日(金) 9:30~12:00
 (2) 場所：東京海洋大学 品川キャンパス (1 号館 4F 418 室)
 (3) 講演内容

まず若手研究者による一般講演が行われ、続いて第 6 回目の物流講習会が行われた。

1) 一般講演

「財務分析から見たアライアンスの特徴について」

尹 星海 (東京海洋大学大学院生)
 黒川久幸 (東京海洋大学)

船会社の定期船部門の代表であるコンテナ輸送部門を対象とし、グローバルアライアンスの再編時ごとに、財務指標関連データを用いて各船社の特徴を捉えることを目的としている。主成分分析を行って、各船会社の規模や安全性など数項目においてランク付けを行い、年度別および船会社別に整理を行って、船会社ごとの過去数年間の特徴を整理されている。今後の研究成果は、次のアライアンス再編にどう意思決定すべきかの参考になるものであり、今後の期待できるものである。

2) 第 6 回物流講習会

・「量販店の事例にみる上海外高橋保税物流園區の現状と今後の方向性」

石原伸志 (東海大学：
 元三井倉庫(株)国際部長)

量販店を取り巻く環境が変化しており、人件費の安い中国で一時保管や流通加工を行う事例が多くなっている。アジアで日本向け貨物の一時保管と流通加工を行える場所を選定する基準について整理し、各種コストが安いこと、リードタイムが短いことはもちろんであるが、規則や手続きが容易に行えることが重要である。物流園區の説明、保税區との違いについても解説があった。上海で一時保管した場合の事

例の紹介があり、そこでの問題点等を指摘され、今後どういった形で、海外の一時保管施設を利用するかを検討するのに非常に有益な情報を提供であった。

・「欧州物流の現状と課題」

篠原正人 (東海大学：
 元エラスムス大学講師)

欧州の物流事情に関する講演が行われた。道路輸送、鉄道、水運海運別に現状や問題点について解説が行われた。道路輸送においてはドライバーの労働時間が法律によって守られており、安い運輸会社となるとだんだん東欧に移行しつつある。また生産拠点もコストを抑えるために東欧に移行しつつあり、消費自体も東へ移りつつあるとの紹介があった。またドイツの Lubeck や黒海に面したルーマニアの Constanza に新しい港湾が建設されているとの紹介もあり、欧州の物流事情が大きく変化している点について非常に有益な情報提供があった。

(4) 研究会総会

1) 2005 年度会計報告と活動報告

昨年度の会計報告と活動内容が報告された。会計報告では若手研究者によるプロジェクト研究に補助しており、この現在の進捗状況の報告も行われた。

2) 幹事の代行について

西村幹事 (神戸大学) の海外出張に伴い、不在期間 (10 月 1 日より 3 月 7 日まで) 中、幹事の代行を新谷浩一先生 (大島商船高等専門学校) をお願いしたい旨の連絡があり、了承を得た。

3) 次期会長について

現会長の松尾俊彦先生 (東海大学) の任期満了に伴い、次期会長の候補者の選考について運営委員会に御一任頂きたい旨の連絡があった。

4) 学会主催シンポジウムについて

2007年2月9日に学会主催のシンポジウムが開催されることが紹介された。

5) その他

会員より補助金の使い方とその効果についての質問があり、若手研究者への補助が研究会メンバー増加や講演会での物流分野の講演数増加につながる効果が効果であるとのコメントがあった。また研究会を運営するにあたり、研究会会員の参加率が最近低下しているとの指摘があった。

2. 2006年度春季運営委員会

- (1) 日時：平成 18 年 5 月 26 日(金) 12:15～13:15
- (2) 場所：東京海洋大学 品川キャンパス（1号館 4F 418室）
- (3) 議題
 - 1) 次期会長について
現会長の松尾俊彦先生（東海大学）の任期満

了に伴う、次期会長の候補者選考について、次回の研究会までの検討事項として研究会運営委員会委員で意見交換を行う旨の確認が取られた。

2) 学会主催のシンポジウムについて

2007年2月9日に学会主催のシンポジウムが開催されることが紹介され、シンポジウムの目的が学会の活性化と民間企業からの参加者を増やすことにあるので、そのために研究会としてどうして行くべきかの意見交換が行われた。

3) 研究会会員の参加率について

また研究会を運営するにあたり、研究会会員の参加率低下についての指摘があり、単に会員の数を増やすのではなく、出席者を増やすためにどう工夫して行くべきかを、運営委員会委員間で引き続き議論して行くことになった。

（幹事：西村悦子）